

## 言葉足らずでヤブ医者に

「名医」といわれるも「ヤブ」と  
 嗤われるも、運しだいである。

67歳のTさん、男性。この頃、な  
 にか様子がおかしい。雑談をしてい  
 ても、時々話がかみ合わない。ボー  
 として、目の焦点が合っていないよ  
 うに見える。ある日、Tさんは、車  
 を駐車場に入れ損なって高級車をボ  
 コボコにしまった。奥さんが、  
 「センセ。たいへん。旦那が認知症」  
 と、Tさんをワッシーのところへ連  
 れてきた。

## 慢性硬膜下血腫

診断は簡単だ。「慢性硬膜下血腫」

である。頭のMRI（磁気共鳴画像  
 装置）で検査をすると、頭の右側に牛  
 乳ビン1本くらいの血腫が溜まって  
 いる。すぐに簡単な手術をし、2週  
 間後にはすっかり元に戻った。それ  
 でしばらくは、ワッシーは認知症を  
 治す名医になってしまったのだ。

「慢性硬膜下血腫」というのは、  
 中年以降に多い病気だ。ドアにおで  
 こをぶつけたとか、滑って後ろ頭を  
 打ったなどという、ちょっとした頭



の衝撃が原因である。だが、頭や顔  
 をぶつけた痛みのある時期は、検査  
 をしても異常がない。その後、シワ  
 シワと出血が続く。2、3週間以上  
 経って、頭を打ったことも忘れた頃  
 に血腫が見つかる。頭痛や手足の麻  
 痺などで気付かれることが多いが、  
 Tさんのように、認知症のような脳  
 の高次機能の障害が目立つ場合もあ  
 る。治療は簡単。後遺症はない。

## 2、3週間後が大事

「あの先生は、ちょっと」と、奥  
 さんは辛辣だ。1カ月くらい前に、  
 Tさんは寝ぼけて柱に頭をぶつけ  
 た。ある病院で頭の検査を受け、異  
 常がないと言われた。それで、今や、  
 その言葉足らずの、運の悪い先生は  
 ヤブ医者になっている。

もちろん、いつ立場が逆転するか  
 分からない。だから、ワッシーは、  
 頭部打撲の患者さんには必ず言う。  
 「今は異常ない。でも、2、3週間  
 後のほうが大事。その頃にこそ検査  
 を」って。

（石黒修三||いしぐろクリニック・  
 脳神経外科専門医、金沢市在住）